

# 仙台司教区

# 教区事務所だより



(第 52 号)  
昭和57年2月1日

## 家庭と結婚の福音的認識を訴える

— 教皇勸告「ファミリーアリス・コンソルチオ」を公表 —

教皇ヨハネ・パウロ二世は昨年11月22日(王であるキリストの主日)に、全教会にあてた教皇勸告「ファミリーアリス・コンソルチオ」を発表した。これは、「現代世界のキリスト者家庭の役割」をテーマにした一九八〇年秋の世界代表司教会議(シノドス)のまとめというべきもの。教皇に提案されたシノドス結果をふまえ、結婚と家庭についての教会の考えを明らかに示している。さいきん、教会では家庭の問題が度々取り上げられるが、問題が目立ってきていると同時に、積極的には神の国実現に家庭が大きな役割を果たすからである。昨年二月に来日した教皇も、家庭教会という言葉を使ってその重要さを教えられた。

さて、四章八十四項にも及ぶほう大なものだけに、この教皇勸告の日本語版が出来るまではまだ時間がかかるだろう。多分、それまではカトリック新聞や雑誌などで紹介されるだろうが、大いに関心をもつようにしよう。

すでに日本語版がでている教皇勸告「カテケージ・トラデンデ」(要理教育)、「エバンジェリイ・ヌンチアンデー」(福音宣教)と同様に、信仰生活の実践のための具体的な指針であるから、すべての信者がこれを読み、内容を理解すべきものである。

第一章では、いま家庭が置かれている状況の正しい認識をもとめている。物心両面での目まぐるしい変化によつて、家庭や結婚にみられる明暗のすがたをよく知ることは、福音にしたがつた判断のために必要であり、その判断はつねに賢明でなければならぬ。「真理は、多数意見といつも同じとは限らない」というパチカン紙の見出しは、この勸告の性格を端的に示しているとも思える。

第二章は結婚と家庭のすばらしい価値について、教会の伝統的な教えをあらためて強調する。「人間は愛である神に似せてつくられた」、「子どもは結婚のすばらしい贈物」。

これらのテーマをあげただけで十分である。第三章はキリスト者家庭の役割について、半分以上の四十八項をあてている。家庭は、①家族の共同体だが②新しい生命を生み育てる使命をもち③社会の進歩に寄与し④信仰を守り福音をひろめ神と対話しながら人びとに奉仕する共同体、であることを強調する。第四章は家庭に対する司牧的配慮。誰が、どんな時、どこで、どんな風にといつた具体的な配慮の仕方、具体的なケースにふれているから、家庭の種々の問題の指針、示唆となるだろう。

この教皇勸告に対して教会外の論評に、進歩派には受け入れがたいものとあつた。しかし私たちに、世俗化傾向に毒されている現在の家庭(結婚も)と私たち自身の考えを、きびしく見直す機会となるろう。一日も早い日本語版の完成をのぞみたい。

### 司教の日程(1月13日現在)

- 2月1日 教区司祭団役員会
- 11日 ドミニカン修道院落成式(香川県)
- 20日 桜の聖母小学校落成式(福島)
- 22日 教区司祭団月例会
- 23日 宗教法人責任役員会
- 28日 西仙台教会堅信式

1982・年間目標

家庭から社会に  
キリストの平和を

(仙台司教区)



司教さま

おめでとう!!

1月10日、元寺小路教会で  
霊名ライムンドの、お祝い



57

教会婦人会心づくしのごちそうをいただきながら、日曜学校の子供たちの歌もあつて、司教を囲んだ和やかなひとときを過ごした。

シスター二名が終生誓願

△女子ドミニコ会 V

1月5日午後2時より、聖ドミニコ女子修道会天使園修道院（仙台市角五郎二丁目）において、佐藤千敬司教ら六名の司祭のささげる共同ミサの中で次の二名の同会修道女が、終生誓願の宣立を行った。

シスター・マリア・テレジア遠藤よし子

亙理教会出身、昭和47年入会。

シスター・マリア・ドミニカ竹元しのぶ

京都教区高野教会出身、昭和47年入会。

現在兩人とも養護施設仙台天使園で働いている。なおシスター竹元に洗礼を授けた京都教区の松田友明神父は1月3日に急逝され、誓願式の同時刻に葬儀ミサが行われていた。佐藤司教は説教の中で、「一粒の麦も大地に落ちて死なずば：」と話していたが、参列した人びとに実感をもつて迫るものとなった。

恒例の「殉教祭」

今年は2月28日(日)！

毎年行われている仙台広瀬川殉教祭が、今年は2月28日(日)に行われることになった。昨年は、教皇訪日の直前だったため、恒例のロザリオ行進は中止されたが、今年は例年どお

り、元寺小路教会を起点として、ロザリオの祈りをしながら、一番丁を通り、川内大橋下の殉教碑前まで行進する。

キリストの証人として四百年前に、厳冬の広瀬川で殉教した先人の遺徳をしのび、共に祈るよう参加を呼びかけている。

2月28日午後1時半 元寺小路教会出発

ロザリオ行進

2時 広瀬川殉教碑前到着

祭典

説教IIブテット神父（北仙台）

十万人の署名をめざし

核廃棄物の海洋投棄に反対する

一正義と平和協議会一

カトリック正義と平和広島協議会では、2月末日を目安に、日本カトリック正義と平和協議会と合同で科学技術庁の放射性核廃棄物海洋試験投棄計画の反対署名運動を進めている。

この海洋試験の投棄は、低レベル放射性廃棄物のセメント固化体約五百キュリー分（ドラムカン約一万本分）を東京湾から東南九百キロの北太平洋西部海域の海底六千メートルに沈めるといふものである。

これは、安全性からいっても、投棄流行化の恐れからいっても、そして太平洋をゴミ捨て場にしないで、との太平洋諸島の人達の訴えからも無視できない問題である。

同協議会は、全国の教会、修道院二千か所に署名簿を送り協力を求めているので、仙台教区内でも、積極的に協力しよう。

去る1月10日、司教座聖堂元寺小路教会の信者たちは、教区长佐藤千敬司教の霊名のお祝いをした。佐藤司教の霊名である聖ライムンド・ベニャフォル司祭の祝日は1月7日のため、同教会では新年会を兼ねて主の洗礼の主日に司教の霊名を祝うことが恒例になっている。これは司教座聖堂の信者が仙台教区の全信者を代表して、教区の最高牧者の慶事をお祝いすることを示している。

同日午前9時30分から、佐藤司教が主司式者になり、司教総代理三浦平三神父、元寺小路教会主任司祭土井文雄神父、教区の最長老島田実神父と共同でミサをささげた。ミサ中の説教で三浦神父は司教にお祝いを述べたあと、第二バチカン公会議文書の教会憲章を引用しながら、カトリック教会における位階制度（ヒエラルキヤ）、司教職の意義について話し、その理解と認識が一人ひとりの信者の正しい、健全な信仰生活に不可欠なものであることを強調した。

ミサ終了後、信徒会館で新年会を兼ねた祝賀会が催され大勢の信者が参加した。主任司祭のあいさつ、信者代表の祝辞のあと、子供たちの手から花束とお祝いが司教に贈られ、司教は謝意とともに、仙台教区全者が一つになつて神の国実現に働くことをのぞまれた。

クリスマス  
市民と共に



―各地で合同クリスマス―

**青森** 青森では、12月12日青森市民会館で市内八つのカトリック、プロテスタントの各キリスト教会が合同のクリスマス集いが行われ、約五百五十名の人々が参加し、主の御誕生を祝った。

第一部は聖歌、聖書朗読、信仰の証し、メッセージ、祈りがあり、これを明の星短大の女声コーラスが見事にバックアップし、祈りの雰囲気盛り上げた。

第二部は、米軍基地に住む婦人達十数名によるバンド。ベルの音楽「ベルによるクリスマスキャロル」が演奏され、また市内の二つの合唱団のクリスマス聖歌の合唱もあり、会場には楽しさが満ちあふれた。幕あいには、アニメ映画によるクリスマス紹介があり喜ばれた。

最後に全員合唱「聖しこの夜」で幕を閉じたが、会場を出る時、互いに手を振り、あいさつを交わす姿は、市内のキリスト教が一致して行ったという喜びが表われていた。

**岩手** 盛岡市内カトリック三教会の合同クリスマス前夜祭が、12月24日午後7時から、盛岡白百合学園大ホールで行われた。

「教皇様と共にポーランドの平和のために」「アフリカや東南アジアの難民のために」との祈りのスローガンの下に、八百名を越える信徒及び一般市民が参集して、静かに深い祈

りをささげ、力強く聖歌を歌った。  
音楽、子ども達による天使のお告げ、ローソク行列、スライドによる福音の朗読、白百合学園合唱部によるコーラス、世界の難民と県内の施設の子どものための献金、など、恒例のクリスマスミサであったが、今回は特に、教皇様の故国ポーランドの政情不安を案じ、特に、ワレサ「連帯」委員長の軟禁下での信仰、勇氣、忍耐に思いを馳せ、祈りも真剣であった。

**福島** いわき市キリスト教連合会が主催する第16回市民クリスマスは、12月12日市民会館で行われた。今回は、国際障害者年の参加行事として、特に障害者の方々の交流と理解を含めて行われ、八百人が参加した。

市内の各施設から多くの障害を持つ方々の参加があり、特に車いすの方々がローソクを手に入場した時は、会衆一同深い感動を覚えた。第一部は、カトリック、プロテスタントがそれぞれ役割を分担し礼拝、第二部は、「神の力に支えられて」と題し、福島整肢療護園長湊治郎氏の講演があった。湊氏は牧師の資格を持つ医学博士で、宮城県出身、国立西多賀療養所長を長年勤めた後、昭和54年、一切の榮譽と地位を投げ打って福島整肢療護園の園長に就任し、肢体不自由児の友として療護、訓練に献身され、御自分の経験を中心に語り、人々に感銘を与えた。



ポーランド問題を考える

小名浜教会・古田繁男

私達の教会の元旦ミサの共同祈願で、世界の平和とポーランドの兄弟のために祈った。

ポーランドは共産圏下でありながら信仰の自由が認められ、真の自由を求めて、暴力革命をせずに、民主主義を確立しようとする国家である。その結果、自主労働組合が生まれ、スト権も認められ、この運動の中心となった自主管理労働組合連帯の内部革命の成功はめざましかった。しかし国民は、政府の食糧、経済政策の失敗から、極度の生活苦に追い込まれ、ギエレク政府は退陣し、共産政権はヤルゼルスキーを首相とする軍事政府を誕生させた。これに対し連帯は軍事政権不信任等二項目をあげ国民投票に持ち込もうとしたため、12月13日、ついに非常事態宣言を発し、連帯の多数幹部の逮捕、国民の集会禁止と強制就労を命令した。ワレサ氏も軟禁され、事態の収拾に協力を求められているが拒絶している。ポーランドの今後は、増々厳しい事態となる。

先般、日本カトリック司教団からポーランドの教会に励ましと支援の手紙が送られ、カリタス・ジャパンからも教皇庁を通して、グレンプ大司教あて緊急援助金が送られたとカトリック新聞に報じられた。この非常事態をポーランドの兄弟達が希望をもって乗り切っていけるよう、祈ろう。



〔こんなこともあります〕



一年の中で人の移動の激しいのは、新学年、新財政年度を控えた三月でしょう。転勤で移って行く人、高校を卒業して希望を胸に進学あるいは就職する人……。新しい土地に移って新しい環境になじむまでにはいろいろ苦労もあるでしょう。でも信仰者としての立場からすればこの移動ということは、今までの環境から独り放り出されるといふよりも、新しい生活の場に福音をもたらすよう派遣されることなのだ、と言えます。

ところで現実新しい土地に移って行く場合、青少年の場合特に、土地不案内とか、知人がいないとか、どの教会に通つたらいいかわからないとか、生活は大丈夫だろうか等、本人もまた送り出す家族も不安を感じるという事も付随します。それで教会では、そのような人達のお役に立ちたいと教区毎に「移動信徒連絡事務所」を設けて、〃どのようなことでも相談のりましよう〃と待っています。特に東京・名古屋・大阪等では専属のシスターが働いています。

信者は必ずどこかの小教区に所属する（籍を置く）ことになっていきますから、移動の際には転出・転入の手続きが必要なのですが、この連絡事務所の仕事は移動確認の事務的チェックではなく人間的接触を目的とするものです。ですから転出先の教会がわかって神父さんの手を通してきちんと移籍の手続きをす

る場合も、またそれができない場合も、あるいはまた、たとえ学生で休暇の時には帰省するし二・三年のうちに地元に戻ってくるのだから籍は移さないでおこうと神父さんも本人も同意している場合等、とにかくどんな場合でも行つた先の教区の移動信徒連絡事務所と連絡しておくことがすめられます。以下に主な連絡事務所を記します。直接にそこに連絡するなり、あるいは仙台司教区事務所（平賀）に問い合わせ下さつても結構です。

〔移動信徒連絡事務所〕

東京 112 文京区関口3の16の15

東京大司教館内  
シスター 向田 Tel 945 166八六

横浜 211 川崎市中原区新丸子東2の895

小杉苑1の2  
上原功宏神父 Tel 044の434 1四三三

名古屋 461 名古屋市東区葵2の6の29

福信館内  
七種照夫神父、シスター 山村  
Tel 052の935 1七一八〇

大阪 663 西宮市甲子園町3の11

援助マリア会内  
シスター 鈴木、シスター 山崎  
(平賀徹夫記)

節 旬 四  
2月24日から

今年は2月24日が灰の水曜日、大斎・小斎にも当たっています。主の苦しみに心をあわせて祈ろう。



会うだけでホッとする顔、思い出しただけでもなごやかな気持ちになる顔、反対に、考えただけでもイヤイヤな気持ちになる顔、世の中には色々な顔がある。私はここ一年、辛くなつた時に思い出し、なごさめられ、元気づけられる顔がある。パパ様のお顔だ。パパ様が来日なさつてから、はや一年が過ぎようとしている。

その後一年間、日本のマスコミには、ポランドの事もあつたのだが、昨年ほど「カトリック」という活字の多い年はなかつたのではないだろうか。カトリックまたはパパ様に関する記事を読んでいりうちに「聖公会新聞」3月20日号に若干の批判も加えながらではあるが、聖公会神学院校長の竹田真師が、エキューメニカルの集いに出席され、パパ様について次のように書いているのが目にとまつた。

「すばらしいお方、という一言に尽きる。教皇のメッセージは、別に新しい教えというものではなかつたが、この人は本気でその事を語っている印象を与えるものであつた」と。形式的にはなく、お義理ではなく、本気で人々に語りかけ、本気でキリストを宣べ、本気で私達の進むべき道を説いたからこそ、日本中の人々の心の中に、あれだけグングンと入つて行けたのではないだろうか。今年、何か一つの事でもよいから、本気になつてやってみよう。

(塩釜教会・佐々木正吾)



どくしやのべえじ

神の子は幼な児となつて

元寺小路教会・小川晴美

幼な児となつて、私達の前に目に見える形をもつて現われて下さつた神！

とても大きなメッセージ！

聖堂は荘重な空気につまれ、静けさの中、堂内に響き渡る聖歌隊の歌声で、ミサが始まる。教会へ初めて来た人など、たくさんの人と共に神の誕生を喜び、祝い、祈りをささげる。クリスマスの意味、それはクリスマスケーキを買つて食べる事で終わるものではない。無力で無防備な、放つておかれたら一日たりとも生きてはいけない幼な児となつて貧しい馬小屋の中で生まれて下さつた神、一番みじめな姿でこの世にこられた神秘的な出来事。幼な児、親にすべてをゆだねるしかないその姿は、私にいろいろな事を教えてくれる。心のどこかで何でも自分でできると思つてしまふ。心に安全地帯を作つてしまひ、すべてを神にゆだねることができない。

私の信じている神が、幼な児イエズス・キリストとしてこの世にかわされた。そして人々の祈りの中で私の中にも、神の子が誕生した。そのことを確認し意識することが、クリスマスの日だけでなく毎日持てたらと思う。そして私の中の神の子が成長して、私を通して、神を多くの人々に伝えていけるようになりたいと思つたのである。

真の平和を求めて

盛岡・志家教会・北川好健

「今、平和か？」と問われた時、信徒達はどう答えるだろうか。現代世界憲章78節平和の本質を見るまでもなく、国の内外を問わず殺伐とした空気が満ちている。

ヨハネ・パウロ二世の広島での「平和アピール」は、私達にとつて強烈な呼びかけとなつていてのではないだろうか。

理念のない行政改革の名の下に福祉予算は削られ軍事費だけが聖域化しようとしている。教育の面を見ても、教科書問題に見られるように国家統制が強められ、平和教育は窒息しようとしている。家庭における平和教育が大切な時は、今を置いて他にはないといえる。幸いに靖国問題や、核廃棄物の問題について日本の司教団は適切な指導と問題提起をしてくれた。私達信徒は、これに応じなければならぬ。ポーランドでは軍隊が銃口を国民に向けている。日本でも、いつそうならないとも限らない。その時では遅すぎる。

今こそ「平和アピール」を学び、祈り、実践する時ではないだろうか。

キリストの肢体の一部として働く機会を与えられていることを感謝しつつ。

教育と祈り

元寺小路教会・阿部恵子

ある雑誌に、今の中学校が学校らしい体面と秩序を維持していけるのは、第一に内申書でおどしていること。第二に、校則で頭の先

から足の先まで生徒をしめあげていること。

第三に、教師の腕力で押さえつけていることと載っていました。その不毛の教育と対照的に教育の原理として、国語教育易行道の中に、

「私の常に理想としている先生は將に飛ばんとする雀の子を片手に握り得るような方で、

言う心は、強く握つて死に至らしめず、緩きに過ぎて飛び去らしめず、手は天地の大法、しかし温みあつて快く、雀の子もその処に安んじるような義でございます」と。また、「児童は

仲々言うようにはならないものですが、為るようには必ず為るものがございます。教育が

内からとなり、内へとなつて行きましたら、如何に易々たる中に、効果の大なるものが得られるかと思ひます。」と教育における「祈り」

が打ち出されています。私は疲れ果てている時に、コルベ神父の端正な生き方を想ひます。

「自分自身が、まず他人の手下になるように。」

重い足を引きずり歩み続けます。身にふりかかる困難から逃げない。そして生徒をも逃がさない。これが私の教育の一端です。私をそ

うさせてくださる御方に助けを求めながら、精神の飢餓を訴え悲痛な叫びを続ける生徒とともに歩むのです。

「罪なきものよ、石もてこの女をうて。」事を起こす生徒達にじかに触れると反発のみの反発しか返つてきません。ぬくみと理解で確かめた上での「ま」が必要です。その「ま」が

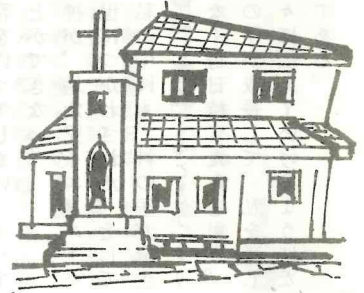
祈りです。今、私に欠けているものはその祈りです。

私の飢餓を補ってくださいますように。



おらが教会 (16)

岩手・遠野教会



遠野、といえは、一般の人は遠野物語(柳田国男著)を思い浮かべ、あの民話の町か、と言ひ、古い遠野を知る人は、昔は馬産地で有名だったんでガンスよ。あそこは遠野南部と云つて南部の殿様一万石の城下町でナス、駅の突き当たりにも南部神社つていうのがあるがナス、と言ひ。又、別な人は、遠野は川が多くて殊に猿ヶ石川の清流にヤナをかけ、鮎の塩焼きを食べさせる所があるが、鼻曲り鮎つてよく身がしまつてあゝの味は、よその川のと一は一寸違ひ、といつた具合である。又、少し詳しく見ると、学術上貴重といわれる無尽和尚の建てたという中世禅宗伽藍の東禅寺の社もあり、義山和尚が餓死者供養のために刻んだ五百羅漢の石仏もこの地に生きる人々にぬくもりを今も伝えてゐる。

更に大きき日本一を誇る福泉寺の木造大観音像、対泉院の大仁王像、又、最近出来た民話色豊かな市立博物館、国の肝いりソーラー施設、水光園と、この民族学発祥の地は、今や歴史と文化と観光の町の貫録をいや増しつ

つあるのである。

(こんな事を書いてみると読者の皆様から、コレ、題名を忘れたのではないか、との声が出てきそうであるが、つまり、この地が民話の育つような風物と素朴な人間生活の歴史の町であり、土壌的には、当然仏教色濃い町である事を強調したわけである。)

さて、おらが遠野教会は、三十年住みなれた新町(砂場丁)を離れ、一、八キロの引越しをして、去る10月17日落成式を祝つたばかり。周囲は遠野三山(早池峰、六角牛、石神山)をはじめ、大小の山々が一つに連なり、その起伏する山波の谷間、遠野盆地の大日山の森近い稲荷下地区の田んぼの真ん中、神と太陽の光を浴びて、銀色の十字架を輝かせた木造モルタル二階建、二三五平方メートルの教会と付属幼稚園(一階建六五〇平方メートル)の二つの建物が敷地面積三、三三〇平方メートルの広い土地に美しい洋風近代建築スタイルで出現したのである。

主任司祭は人も知るマックス・エンデルレ神父様。スイス人、ベトレム外国宣教会会員、五十五歳、当教会五代目主任で在遠十九年目を教える。人ざわりも押し出しもまことに良い神父様で、親切で面倒見よく、長年遠野からスイスに農業及び家事実習生を送つており、幼稚園経営にも熱心な、子供と花と写真の好きな園長先生でもある。ただ、信者や幼稚園の先生に心が広い余り、ごミサ出席や受洗のすすめを特になさらないので、釜石、大船渡、宮古等の子ども教会より母なる教会

が今までは活動が鈍かつた事は確かである。しかし、今の都市計画事業に協力という形を取つて、神の恵みあふれる新教会を与えられた私達は、そこに神の遠野にける望みを感じないではいられない。いつの時代も歴史を支配しておられる慈しみ深い父である神が、至らない私達を信仰に生きる者、つまり神の宣教の協力者になつて欲しいという切なる望みを込めて、過分とも思える可見的教会を下さつたに違ひない。今度は、私達信者が心から回心して、神と共に生きることの深い喜びと平和をみなぎらせ、新しい力をいただいて応えてゆく番である。

遠野出身の故海老弥六神父(島田神父様と同期)とその御一家の霊が、遠野教会に豊かな実りを、と聖母マリアに取り次ぎつつ、見守つておられる事であろう。

(文責||アンナ・菅田)

【おしらせ】

◎テレビアニメ劇場好評(聖書物語)

聖書の中のエピソードが楽しいアニメーションを通して子ども達に語りかけます。3月未だ次のように放映の予定/各地区毎に日時を地元新聞で確かめて御覧下さい。

- 青森放送 17時半~18時・山形テレビ 17時半~18時
- 仙台放送 16時半~17時

仙台司教区事務所だより  
 昭和57年2月1日発行  
 発行所 仙台司教区事務所  
 980仙台市本町一丁目2番12号 TEL 0222 22 7371